Weekly ウィークリー オイル マーケット レビュー
Oil Market Review 19第30号
2019年（令和元年） 11月8日（金曜日） 毎週（金）14:00発行

発行所 （一財）日本エネルギー経済研究所 石油情報センター
電 話 （03）3534-7411（代）
F A X （03）3534-7422
〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌイビル・カチドキ11階
ホームページ https://oil-info.ieej.or.jp

■ 概況

10/24~10/30のNYMEX・WTIは、55.06～56.66ドルの範囲で推移した。

10月31日は、中国の製造業購買担当者景況指数（PMI）が6ヶ月連続で50を下回り、中国経済が減速したと見て、4日続落した。また、中国政府担当者が米中貿易合意への疑問を発言したことも下降要因となった。12月限終値は前日比0.88ドル安の54.18ドル。

週末11月1日は、米中の好調な経済指標、クドロー米国家経済会議議長の米中貿易合意への楽観的発言など世界経済の後退懸念が和らいだこと、カナダから米国へのキイストーンパイプライン（輸送能力：日量59万バレル）が停止したことから、5営業日ぶりに反発した。ベーカーヒューズ社発表の米国稼動石油掘削機は691基で前週比5基減と2週連続の減少も上昇要因となった。12月限終値は前日比2.02ドル高の56.20ドル。

週明け4日は、米中貿易合意に向け、様々なチャンネルで両国が模索しているとの報道で、合意への期待が広がるとともに、イランのザンガネ石油相が、12月の会合で減産の拡大を期待するとの発言があり、続伸した。12月限終値は前週末比0.34ドル高の56.54ドル。

5日は、習主席が、米中合意に向け、訪米条件を探っているとの報道、米政権が対中制裁関税第4弾の一部撤廃を検討しているとの報道で、3営業日続伸し、6週ぶりの高値を付けた。また、この日、OPECが発表した世界石油見通しは、2018～24年で非OPECの石油供給が日量660万バレル増産されることから、需給均衡のためには一層の減産が必要になるとの見通しを示唆した。12月限終値は前日末比0.69ドル高の57.23ドル。

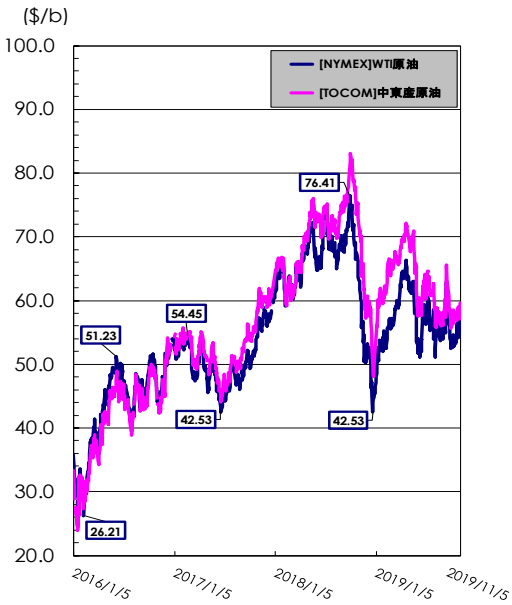
6日は、同日発表の米国エネルギー情報局(EIA)の在庫週報で、米国原油在庫が前週比790万バレル増と市場予想を大きく上回り2週連続の積み増しとなり、4営業日ぶりに反落した。12月限の終値は前日比0.88ドル安の56.35ドル。

アジアの指標原油である中東産ドバイ原油/東京市場（12月渡し）は10月24日～30日の間59.80～62.10ドルの範囲で推移した。10月31日59.20ドル、11月1日58.50ドル、5日61.10ドル、6日61.40ドルで推移した。

為替は10月24日～30日の間108.68～109.00円の範囲で推移した。10月31日108.88円、11月1日108.03円、5日108.79円、6日109.09円で推移した。

そのような中で、11月5日時点の小売価格は、ガソリンが前週比0.2円の値上がり、軽は同0.2円の値上がり、灯油は同横ばい（18㍑ベース）だった。ガソリン・軽油が4週ぶりの値上がり、灯油は4週ぶりに値下がりが止まった。この週（11月第1週）の原油コストは値下がりであったが、次週の元売の卸価格はガソリン・軽油・灯油ともに、全社据え置きとなった。

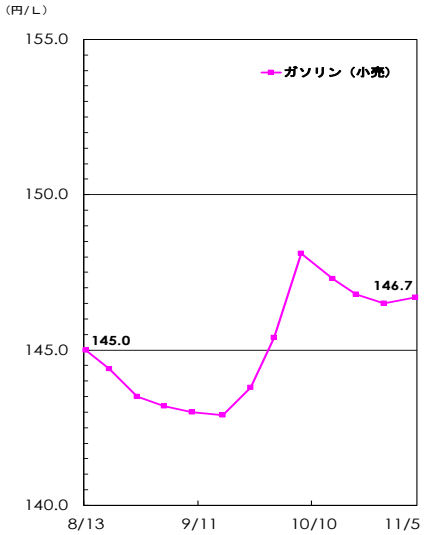
原油			今週		前週比	前年比
需給	原油処理量	（千kl）	10/27 ～ 11/2	3,255	▲ 123	▲ －
需給	トッパー稼働率	（%）	〃	83.1	▲ 3.1	▲ －
需給	原油在庫量	（千kl）	11/2	11,999	▲ 206	▼ －
価格	中東産原油(TOCOM)	（$/bbl）	11/5	59.62	▲ 0.64	▼ -11.1
価格	WTI原油（NYMEX）	（$/bbl）	11/4	56.54	▲ 0.73	▼ -6.6
価格	原油ＣＩＦ単価	（$/bbl）	10月上旬	64.52	▲ 0.75	▼ -14.67
価格	①原油CIF単価	（¥/kl）	〃	43,760	▲ 593	▼ -12,474
価格	②ドル換算レート	（¥/$）	〃	107.84	▼ -0.22	▲ 5.06
価格	外国為替ＴＴＳレート	（¥/$）	11/5	109.79	▲ 0.01	▲ 4.44



（単位：千kl、円/㍑）

ガソリン			今週		前週比	前年比
需給	生産		10/27 ～ 11/2	922	▲ 152	▲ －
	輸入		〃	n.a.	n.a.	n.a.
	出荷		〃	737	▼ -123	▼ －
	輸出		〃	172	▲ 149	▲ －
	在庫		11/2	1,518	▲ 12	▼ －
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均]	(RIM)	10/29 ～ 11/4	57.8	▲ 0.5	▼ -12.0
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	10/29 ～ 11/4	54.4	▼ -0.3	▼ -9.3
		(TOCOM/中部)	11/1	55.5	▼ -0.5	▼ -8.0
	小売 [週動向]	(資エ庁公表)	11/5	146.7	▲ 0.2	▼ -12.0

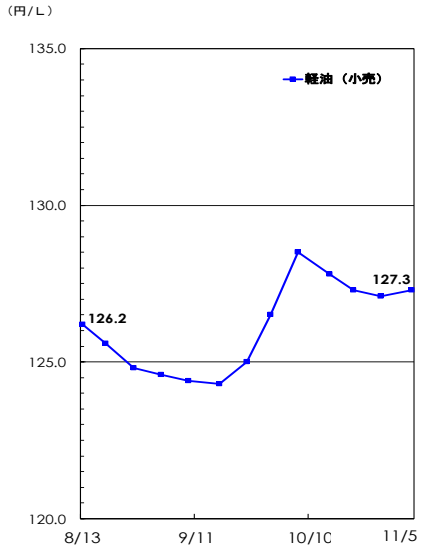
※業転、先物価格は税抜き価格



（単位：千kl、円/㍑）

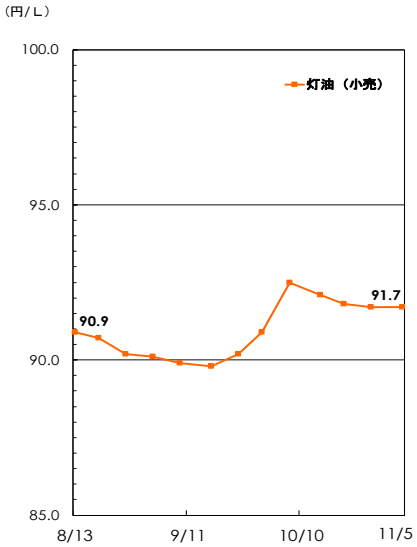
軽油			今週		前週比	前年比
需給	生産		10/27 ～ 11/2	799	▲ 93	▲ －
	輸入		〃	n.a.	n.a.	n.a.
	出荷		〃	632	▼ -12	▲ －
	輸出		〃	149	▲ 67	▲ －
	在庫		11/2	1,360	▲ 18	▼ －
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均]	(RIM)	10/29 ～ 11/4	60.7	▲ 0.8	▼ -11.2
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	10/29 ～ 11/4	61.8	▲ 0.9	▼ -10.5
		(TOCOM/中部)	11/1	－	－	－
	小売 [週動向]	(資エ庁公表)	11/5	127.3	▲ 0.2	▼ -10.1

※業転、先物価格は税抜き価格



（単位：千kl、円/㍑）

灯油			今週		前週比	前年比
需給	生産		10/27 ～ 11/2	222	▼ -38	▼ －
	輸入		〃	n.a.	n.a.	n.a.
	出荷		〃	181	▲ 5	▲ －
	輸出		〃	20	▼ -20	▲ －
	在庫		11/2	2,818	▲ 22	▲ －
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均]	(RIM)	10/29 ～ 11/4	60.0	▲ 0.4	▼ -11.1
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	10/29 ～ 11/4	58.0	▼ -0.3	▼ -10.9
		(TOCOM/中部)	11/1	60.0	➡ 0.0	▼ -8.0
	小売 [週動向]	(資エ庁公表)	11/5	91.7	➡ 0.0	▼ -7.7



■ 関連情報

1　海外/原油

11月6日のNYMEX市場WTI原油は、同日発表の米国エネルギー情報局(EIA)の在庫週報で、米国原油在庫が前週比790万バレル増と市場予想（同150万バレル増）を大きく上回り2週連続の積み増しとなり、4営業日ぶりに反落した。ただ、ガソリン在庫は280万バレル減、中間留分も60万バレル減と取り崩しになった。また、米中首脳会議の日程が今月中から12月にずれ込みそうだとの米国政府筋の発言も、値下がり要因となった。12月限の終値は前日比0.88ドル安の56.35ドル、1月限の終値は前日比0.91ドル安の56.38ドル。

EIAによると、11月4日時点のガソリンの小売価格は、前週比0.9セント値上がりの1ガロン2.605ドル（74.9円/㍑）、ディーゼルは同0.2セント値下がりの3.062ドル（88.1円/㍑）となった。ガソリンは2週ぶりの値上がり、ディーゼルは2週ぶりの値下がりだった。

2　国内/製品需給　（1）出荷

石連週報によれば、2019年10月27日～11月2日に休止したトッパー能力は29.9万バレル/日で、前週に対して5.7万バレル/日減少した（全処理能力は351.9万バレル/日）。原油処理量は325.5万klと、前週に比べ12.3万kl増加。前年に対しては15.1万klの増加。トッパー稼働率は83.1%と前週に対して3.1ポイントの増加、前年に対しては3.8ポイントの増加となった。

生産は前週に比べてガソリン、ジェット、軽油、C重油が増産となり、その他の油種で減産となった。ガソリン/19.7%増、ジェット/65.3%増、灯油/14.6%減、軽油/13.2%増、A重油/0.5%減、C重油/20.4%増。今週のC重油の輸入は0.0万kl（前週比0.0万kl減）。軽油の輸出は14.9万kl（前週比6.7万kl増）。

出荷（輸入分を除く）は、前週比ではガソリン、軽油が減少となり、その他の油種で増加となった。前年比ではガソリン、A重油が減少となり、その他の油種で増加となった。ガソリンの出荷は73.7万 kl（対前週14.3%減）と2週振りで減少となり、11週連続で100万klを下回った。ジェット8.6万kl（対前週1,390.9%増）、灯油18.1万kl（対前週2.5%増）、軽油63.2万kl（対前週1.9%減）、A重油15.9万kl（対前週2.4%増）、C重油22.5万kl（対前週33.4%増）。

（単位：千KL）

	今週 (10/27 ~ 11/2)	前週 (10/20 ~ 10/26)	前週比	
ガソリン	737	860	▼ -123	(-14%)
ジェット燃料	86	6	▲ 80	(1333%)
灯油	181	176	▲ 5	(3%)
軽油	632	644	▼ -12	(-2%)
A重油	159	155	▲ 4	(3%)
C重油	225	169	▲ 56	(33%)
合　計	2,020	2,010	▲ 10	(0%)

※今週出荷量＝（前週末在庫＋今週生産＋今週輸入）－（今週輸出＋今週末在庫）

2　国内/製品需給　（2）在庫

11月2日時点の在庫は、ジェットで取り崩しとなり、その他の油種で積み増しとなった。前年に対しては、灯油が積み増しになり、その他の油種で取り崩しとなった。

ガソリンは151.8万kl、前週差1.2万kl増。前年に対しては20.2万kl少ない。

灯油は281.8万kl、前週差2.2万kl増。前年に対しては10.4万kl多い。

軽油は136.0万kl、前週差1.8万kl増。前年に対しては9.5万kl少ない。

A重油は73.6万kl、前週差1.3万kl増。前年に対しては2.4万kl少ない。

C重油は198.8万kl、前週差4.5万kl増。前年に対しては2.5万kl少ない。

（単位：千KL）

	今週 (11/2)	前週 (10/26)	前週比	
ガソリン	1,518	1,506	▲ 12	(1%)
ジェット燃料	868	942	▼ -74	(-8%)
灯油	2,818	2,796	▲ 22	(1%)
軽油	1,360	1,342	▲ 18	(1%)
A重油	736	723	▲ 13	(2%)
C重油	1,988	1,943	▲ 45	(2%)
合　計	9,288	9,252	▲ 36	(0.4%)

3　国内/製品卸売価格　（1）元売会社 仕切価格改定動向

10月29日～11月4日の原油価格は、前週比で値下がりし、為替レートは横ばいで、原油コストは値下がりしたものと見られる。

陸上スポット価格は、10月29日～11月4日の間、ガソリン111～112円台で値上がり、軽油59～60円台で値上がり、灯油59～60円台で値上がりして推移した。

海上スポット価格は、同期間で、ガソリン112～113円台でゆるやかに値上がり、軽油62円台でわずかに値上がり、灯油57～58円台でわずかに値上がりして推移した。

先物価格は、同期間で、ガソリン107～108円台で値下がり、軽油61円台でわずかに値上がり、灯油57～58円台で値下がりして推移した。

3　国内/製品卸売価格　（2）業転価格・先物価格動向

10月29日～11月4日の製品スポット市況は、10月22日～29日平均と比べ、ガソリンと灯油の先物の値下がりを除いて、他の油種・取引で値上がりした。

直近の陸上スポット価格（10/29～11/4千葉、川崎、中京、阪神の4地区の陸上ラック価格平均値）は、前週比で、ガソリンは0.5円の値上がり、灯油は0.4円の値上がり、軽油は0.8円の値上がりだった。

東京湾渡しの海上スポット平均価格は、前週比で、ガソリンは0.4円の値上がり、灯油は1.4円の値上がり、軽油は0.9円の値上がりだった。

先物価格は、前週比で、ガソリンが0.3円の値下がり、灯油は0.3円の値下がり、軽油は0.9円の値上がりだった。

11月第2週の大手元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに、全社据え置きとなった。

（RIM）　（単位：円/㌔㍑）

[陸上ローリー 4地区平均]		今週（10/29 ~ 11/4）	前週（10/22 ~ 10/28）	前週比
スポット価格	レギュラー	57.8	57.3	▲ 0.5
	灯油	60.0	59.6	▲ 0.4
	軽油	60.7	59.9	▲ 0.8

（TOCOM）　（単位：円/㌔㍑）

[期近物/終値〔平均〕]		今週（10/29 ~ 11/4）	前週（10/22 ~ 10/28）	前週比
先物価格	レギュラー	54.4	54.7	▼ -0.3
	灯油	58.0	58.3	▼ -0.3
	軽油	61.8	60.9	▲ 0.9

※上記価格は税抜き価格

参考値　（10/29～11/4実績値）　（単位：円/㌔㍑）

油種	現物	先物	平均
ガソリン	▲ 0.5	▼ -0.3	▲ 0.1
灯油	▲ 0.4	▼ -0.3	➡ 0.0
軽油	▲ 0.8	▲ 0.9	▲ 0.9
A重油	▲ 0.6		

（出所）現物：RIM社陸上ローリー4地区平均価格
（千葉・川崎・中京・阪神）
先物：TOCOM京浜地区海上バージ渡し平均価格

4　国内/製品小売価格

11月5日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比0.2円高の146.7円、軽油は同0.2円高の127.3円、灯油は18㌔㍑ベースで同横ばいの1,650円（1㌔㍑ベースでは同横ばいの91.7円）。ガソリン・軽油は、4週ぶりの値上がりで、灯油は4週ぶりで値下がりが止まった。都道府県別には、値上がりが30道府県、横ばいが3県、値下がりが14都府県となった。全国最安値は徳島県の140.3円（前週比1.5円安）、その次に安いのは、鳥取県の141.5円（同0.5円高）、最高値は長崎県の157.3円（同0.4円高）。最も値上がりしたのは1.8円高の群馬県（146.2円）、横ばいは高知県（154.1円）等3県、最も値下がりしたのは1.6円安の香川県（143.0円）だった。

先週の原油コストは値上がりし、今週適用の大手元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに、全社1.0円の値上げとなった。今週は、原油価格は値下がりし、為替レートは横ばいで、原油コストは値下がりした。次週適用の元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに、全社据え置きとなった。次週（11月11日）のガソリン・灯油の小売価格は、転嫁遅れがあることから、小幅な値上がりが予想される。

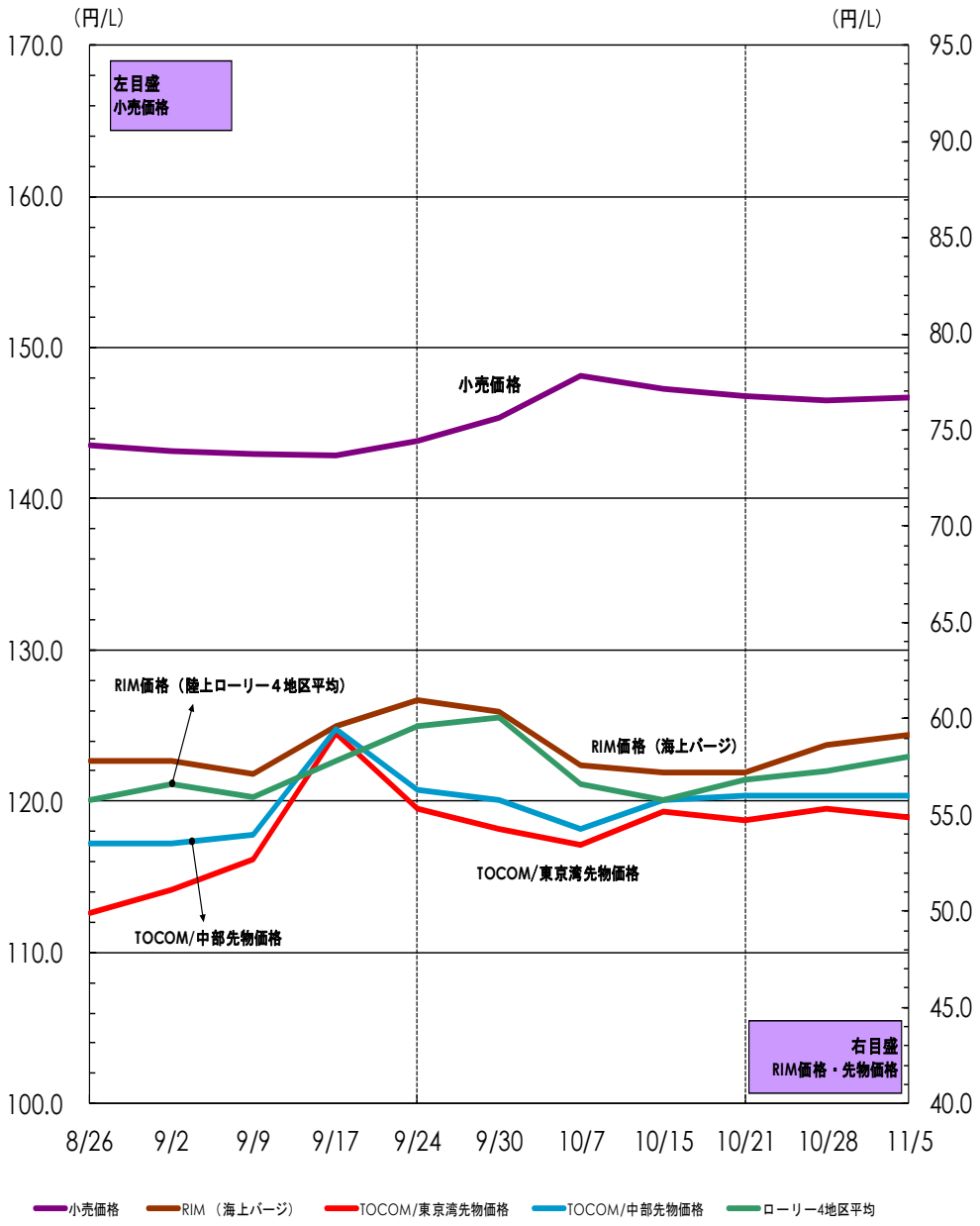
（単位：円/㌔㍑）

（資エ庁公表）[週動向]		今週　(11/5)	前週　(10/28)	前週比	直近高値	
小売価格	レギュラー	146.7	146.5	▲ 0.2	08/8/4	185.1
	灯油	91.7	91.7	➡ 0.0	08/8/11	132.1
	軽油	127.3	127.1	▲ 0.2	08/8/4	167.4

※ 現金一般価格の全国平均値（消費税込み）
07年4月以降 2,000店舗を対象。
直近高値とは2003年10月以降の最高値。

ガソリン価格推移

(2019/8/26　～　2019/11/5)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格
②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ（https://oil-info.ieej.or.jp）にも掲載しています。
次回（2019第31号）の公表は、11/15（金）14:00 です。

「セルフSS出店状況」（平成31年3月末現在）は、7月31日（水）14：00に公表しました。当センターのホームページをご覧下さい。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報（以下、併せて「ドキュメント」）に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター（以下、当センター）又は当センターへドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。
当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。
また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。
当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層（特に給油所経営に携わる方々）から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈 石連週報 〉
石油連盟（石連）「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。
「出荷」は当センターの推計。

②【原油・先物価格】〈 WTI原油、中東産原油 〉
WTI原油は、ニューヨーク商業取引所（New York Mercantile Exchange：NYMEX）WTI原油先物の期近物・終値を採用。
中東産原油は、東京商品取引所（The Tokyo Commodity Exchange：TOCOM）中東産原油の期近物・終値を採用。　※「二番限（翌月限）」
中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱東京UFJ銀行発表TTM（Telegraphic Transfer Middle rate：中値）を採用。
原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」（旬間値）を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

③【国内製品・元売仕切価格】
元売仕切価格は、元売会社（一次卸）と系列特約店など（二次卸）との間で売買される卸価格。
元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

④【国内製品・業転価格】〈 RIM業転 〉
国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社（RIM）「LORRY RACK・レポート」の千葉、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用（いわゆる4RIM価格とは異なる）。

⑤【国内製品・先物価格】〈 TOCOM〉
TOCOM 東京湾 及び中部石油製品期近物・終値を採用。
TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格（平均値）、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格（平均値）。

⑥【国内製品・小売価格】〈 週動向 調査〉
約2, 000 SSを対象に週次ベースのSS店頭における店頭現金価格の全国平均値を採用（資エ庁公表）。原則として、毎週（月）時点の価格を調査し（水）14：00に公表（資源エネルギー庁HPに掲載）。